



今年のアユ遡上状況について

内水試では毎年、大北川、久慈川、那珂川、鬼怒川で投網によるアユの遡上状況調査を行っています。
【遡上の時期】

今年は何れの河川でも遡上の始まりが早かったのが特徴です。久慈川下流域では3月上旬に、那珂川大北川鬼怒川でも3月後半に遡上魚が採捕されました。鬼怒川の3月末の採捕は昨年、一昨年より半月早く利根川でも遡上時期が早かったようです。久慈川での初採捕(3月9日)は、投網調査19年間で2番目に早い遡上確認となりました。最近では平成9年も同様に早く、いずれも沿岸水温の高い年に当たります。

3月～4月上旬の例年見られる1番目の遡上ピークは明瞭ではありませんでした。4月中下旬の降雨後には久慈川、那珂川で堰下に集結し盛んに遡上する姿が見られました。これ以降、下流部での遡上魚の採捕数は減少し、まとまった遡上は見られなくなりました。この遡上群が例年5月に見られる主群の遡上(2番目のピーク)に相当したと考えられます。その後も久慈川下流では解禁後の6月中旬に小型魚が採捕され、断続的な遡上があったようです。

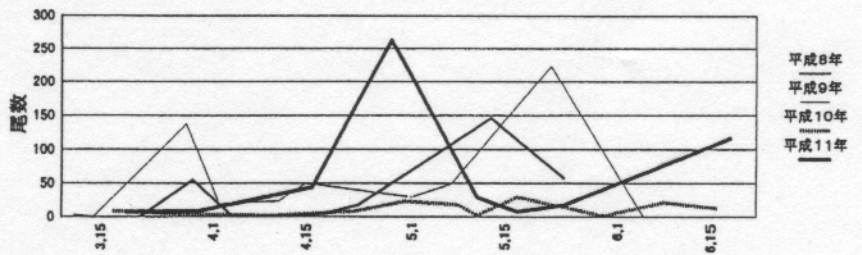


図1 久慈川下流での投網10回あたりの採捕尾数

【遡上量】

遡上期間が長く、まとまった遡上もあったことから、何れの河川も遡上尾数の少なかった昨年よりは、かなり多かったと思われます。現状では採捕数から遡上量を表現するのは難しく、久慈川については昨年より明らかに多いのですが、遡上量の多かった平成8年より少ないと思われ、特に多い年ではないようです。他の河川も同様と判断されます。

【遡上魚の大きさ】

久慈川での初期の遡上魚の大きさは、時期が早いにもかかわらず例年と同じか、やや大きい9～10cmでした。4月以降の遡上盛期は全長7cm台が主体となりましたが、これは例年の盛期の7～8cmよりやや小型でした。しかし、例年より半月ほど早く河川に入ってきているので、初期に遡上したものを含めると、解禁時には良型が多くなっていると思われます。

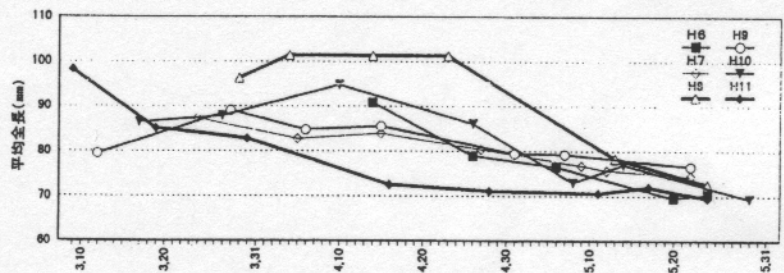


図2 遡上魚の平均全長の推移

【河川等の環境】

河川では2～3月の降水量が少なく、3月～4月上旬はやや渇水傾向でしたが、4月中下旬の降雨で水量を回復しました。5月中旬以降6月末まで再び渇水傾向となっていました。渇水時でも遡上出来ない状況ではありませんでしたが、4月中の遡上は増水に合わせて盛んになっていました。

沿岸海水温は3～5月は平年より1～3℃、昨年より5℃前後高く、遡上時期が早まった原因と考えられます。

昨年のように冬春期の沿岸水温が低いと遡上時期が遅れ、遡上量も少ないといわれています。今年の場合、昨年秋の産卵条件が良く(栃木水試によると那珂川の降下稚魚数が過去最高であったとのこと)、冬季から沿岸水温が高かったこともあって、量的にも期待されたのですが、必ずしも遡上量に結びつかなかったようです。

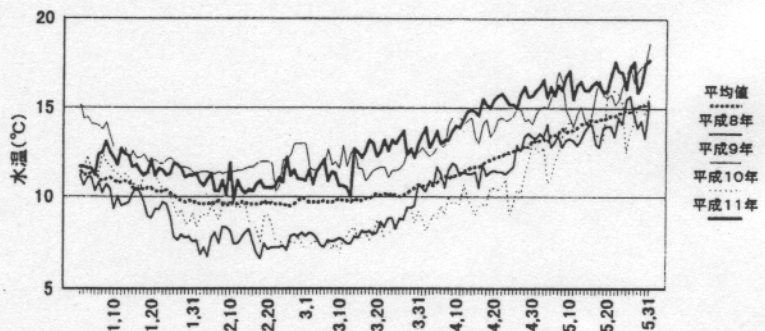


図3 那珂川測定水温の推移(水試漁海況速報より)

担当：里美支場 (TEL：0294-82-2448)

茨城県内水面水産試験場 (TEL：0299-55-0324)